

# フラッシュユ

## JA青森



### 土壌診断栽培講習会 (3/6)

JA青森トマト部会東つがる支部は、JA蓬田支店で土壌診断栽培講習会を開き、部会員13人が参加した。

高温対策や農薬の適正使用、土壌診断について確認し、県東青地域県民局地域農林水産部農業普及振興室の講師が「遮光処理は必須の対策。草勢の維持を心掛け、葉の繁茂による葉陰遮光で果実への高温の影響を軽減してほしい」と呼び掛けた。

## JAごしよつがる



### 市へ要望書提出 リンゴ病害虫対策支援 (3/18)

JAごしよつがると同JAりんご共防連、りんご部会は、五所川原市に対し、2024年産リンゴに係るモモシクイガ対策に関する要望書を提出した。

24年産防除暦に採用された交信攪乱剤の設置には、地域全体の取組みが必要だが生産者の経済的負担が大きく、病害虫の発生源となる放任園も管内で増加傾向にある。要望書には、産地一丸となった対策と支援、取組みの強化が必要であることを盛り込んだ。

### 女性部通常総会・記念サエラコンサート (2/25)

JA相馬村女性部は弘前市にて、第60回通常総会と60周年記念サエラコンサートを開いた。

第一部の通常総会では令和5年度決算報告及び令和6年度予算案が原案どおり可決された。第二部の記念サエラコンサートには地域住民も集い、約120人で会場は賑わった。入場料を能登半島地震被害支援金として募り、この日に集まった7万5762円を寄付した。

## JAつがるにしきた



### 入組前研修 新聞の読み方学ぶ (3/7)

JAつがるにしきたは、JA本店で2024年度から入組予定の新採用職員8人を対象に、農業や農協に特化した『日本農業新聞』の読み方研修会を行った。

講師は「仕事に必要な知識や情報は自ら取りに行くことが重要。情報を提供できる職員は信頼される職員へと繋がる」と話し、情報はコミュニケーションツールとして必須であると解説した。



## JAつがる弘前

### 家の光クッキング・フェスタ開催 (2/27)

JAつがる弘前女性部と一般社団法人家の光協会は、JA本店で家の光クッキング・フェスタを開き、女性部員や地域住民等約70人が参加した。

講師は、部員手作りの漬物や県産農畜産物を使用し「肉巻高菜のあんかけ」「身欠きニシンときゅうり漬けの春巻き」を調理。調理後は、もち米を使った津軽の郷土料理やお餅、県産米を例に出し、弘前の食の魅力について講演した。

## JA相馬村







JA津軽みらい

農産物で食農教育（3/5・6）

北海道北見市のJAきたみらいは、野菜を寄贈するため、JA津軽みらい管内の黒石市と平川市を訪れた。両市役所で贈呈式を行い、それぞれジャガイモ180箱（1箱/10<sup>kg</sup>）とタマネギ18箱（1箱/20<sup>kg</sup>）を寄贈した。両JAは、全国で「みらい」の名を持つ9JAで構成する「みらいサミット」が縁で交流。食育活動の一環として2016年から農産物を贈り合う等の交流を続けている。



JAゆうき青森

229（にんにく）フェスティバル（2/29）

JAゆうき青森は、4年に一度ある2月29日に「229（にんにく）フェスティバル」を七戸町で開き、765人の来場者で賑わった。フェスティバルでは、先着500人に榊王将フードサービスによる餃子の王将のニンニク激増し餃子（1人前3個）が提供された。またJA女性部が作った1個500<sup>円</sup>の餃子を2個食べる早食い大会が行われた。

ももいちぢご出荷本格化（3/7）  
JA十和田おいらせももいちぢご支店管内で、生食用イチゴ「ももいちぢご」の出荷が本格化した。主力品種は「とちおとめ」で収量は例年並み、甘み十分で食味は良好。出荷は6月中旬まで続き、JA直売所「かだあくれ」や「おはよう広場」の他、県内のスーパーマーケットに並ぶ。管内の生産者は9戸、作付面積は50<sup>ha</sup>。シーズン出荷数量は10<sup>t</sup>、取扱高1400万円を見込む。



JA十和田おいらせ



JAおいらせ

やさい推進委員会総代会（2/26）

JAおいらせやさい推進委員会は、令和5年度通常総代会を開いた。議事では、令和5年度の事業報告書及び収支決算書の承認と、令和6年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）の承認について審議され、原案通りに承認された。その他、表彰も行われ、優良生産者として三沢地区から5人、六戸地区から3人が表彰された。



JA八戸

新金融移動店舗車が納車（3/12）

JA八戸では、4月1日より運行を開始する2台目の金融移動店舗車を導入した。JA下長支店に納車され、JA関係者が車両の機能性等を確認した。車両導入は支店体制変更に伴うもので、4月1日より2台体制の運行を予定。支店がなくJAの金融サービスが受けられない地域6ヶ所で、貯金の入出金や税金の収納等、支店窓口と同程度の金融サービスを行う。

## 2023年度協同組合5団体合同研修会

県漁業協同組合連合会、県森林組合連合会、県生活協同組合連合会、労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団北東北事業本部、JA青森中央会の協同組合5団体で構成する「協同組合間提携青森県実行委員会」は2月26日、県水産ビルで合同研修会を開き、オンラインを含め64人が参加した。

県では、2012年から協同組合の重要性や地域社会において果たすべき役割について、幅広く県民に知ってもらうことを目的にこれまで4団体で活動してきた。今年度からは労働者協同組合を加えた5団体での活動を始めた。

研修では県漁業協同組合連合会の熊木正徳専務理事と、日本労働者協同組合連合会の古村伸宏理事長が講演を行った。



▲熊木専務理事の講演を聞く参加者

## くらしの活動研修会

JA青森中央会は2月29日、県農協会館で「組織活動で使える健康増進体操～フレイル・介護予防について～」をテーマとしたくらしの活動研修会を開いた。JA職員ら11人が参加し、各JAでのくらしの活動や女性部活動等において活用してもらうための健康づくりについて学んだ。

同研修会は「農協共済中伊豆リハビリテーションセンター」地域貢献室地域リハ支援課の加納彰課長が講師を務め「健康には社会とのつながりが重要。社会的活動と人とのつながりが介護状態へのリスクを低下させる」と説明した。

参加者は「自分を含め健康寿命を延ばすような生活ができるよう、知識を高めるとともに地域の

方や女性部員へ広く周知していきたい」と話した。



▲グループワークを行う参加者ら

## あおもり食育推進大会2024

JA青森中央会は3月8日、東奥日報新町ビルで開かれた県主催の「あおもり食育推進大会2024」に出展した。当日は大手食品メーカーや県内大学など15団体が参加した。

ブースでは県内小学校で実施している「バケツ稲づくり」やJAグループの独自のキーメッセージである『国消国産』をPR。また「～野菜スタンプでしおりを作ろう♪～」と題して、切った野菜の断面を活かした野菜スタンプを用いたしおりづくりを来場者に体験させた。



▲野菜スタンプを体験する来場者

## JA教材本贈呈式

JA青森中央会の雪田徹会長とJAバンク青森の桐原豊彦支店長が3月11日、青森市の県教育委員会を訪れ、小学校5年生向け令和6年度版の教材本を寄贈した。

教材本は県内の農林水産団体等が食農教育用に



編集・発行する「いのちはぐくむあおもりの農林水産業」とJAバンク発行の「農業とわたしたちの暮らし」の2種類。3月中に県内の小学校と特別支援学校260校へそれぞれ約9,000部配布する。「いのちはぐくむあおもりの農林水産業」の教師用には、教材本に対する意見や要望を集約し、令和7年度版以降の編集作業等の参考とするため、アンケートのQRコードを記載した。

雪田会長は「青森県の将来を担う子供たちに、本県の基幹産業である農林水産業への理解促進、「いのち」の大切さ、「食料」の重要性を考えていただく教材としてご活用いただきたい」と願いを述べた。教材本を受け取った県教育委員会の嵯峨弘章学校教育課長は「いただいた教材を各学校において積極的に有効に活用してまいります」とお礼を述べた。

教材本の贈呈は、JA青森中央会は1992年度から、JAバンク青森は2008年度から行っている。



▲雪田会長と桐原支店長から教材本の贈呈を受けた嵯峨学校教育課長

### 県下JA女性部長・支部長・事務局・合同会議、研修会

県JA女性組織協議会は3月19日、県農協会館で、県下JA女性部長・支部長・事務局・合同会議を開き、県内女性部員約60人が参加した。



▲あいさつをする松橋会長

会議では県女性協役員の定年制度の見直し、2024年度の活動計画、女性部員増加運動等について提案され、参加者からは質問や意見が多く出された。

会議終了後には、青森市の植物店 OOLJEE の葛西真澄氏を講師に招き「多肉植物で春のお手軽ガーデニング」と題した研修会を開き、参加者は鉢植えでのガーデニングを楽しんだ。



### 行事（4/10～5/10）

- 4月
  - 10日 県参協定例会（県農協会館）
  - 18～19日 営農指導初任者研修会（県農協会館）
  - 23日 令和6年度家の光三誌・日本農業新聞キックオフ大会および令和6年度JAトップセミナー（ホテル青森）
  - 26日 県女性協通常総会、創立70周年記念式典（県農協会館）
- 5月
  - 7日 JA営農・経済担当常勤理事・部課長会議（県農協会館）
  - 8日 定例理事会（県農協会館）

# 令和6年度 JA青森中央会配置図（令和6年4月1日付）

代表理事会長	雪田 徹
副会長理事	大場 勉
常務理事	小山 主税

総務企画部	
部長	秋田 弘行
次長	渋谷 亮（総務課長兼務）
総務課	
課長	渋谷 亮
調査役	相馬 一之（全共連県本部より出向）
	中村 勇穂
	工藤 里佳（全農県本部より出向）
	安部 はるか
	伊藤 一成（囑託）
	張山 美咲（派遣）
企画管理課	
課長	渡辺 信義
調査役	工藤 咲美
副調査役	山内 麻衣子
	須郷 愛（派遣）

農業対策部	
部長	小島 睦男
次長	阿保 潤司（組織農政課長兼務）
	山田 真佐子（囑託）
農業支援課	
課長	棟方 涉
考查役	石田 隆徳（全農県本部より出向）
	工藤 有香
	林 和也
	田村 恵太郎
	高野 航希
組織農政課	
課長	阿保 潤司
	（農政・広報担当）
	小堀 晃生
	長内 亨公
	（組織・生活担当）
	工藤 花林
	小原 双葉
	土岐 禎渡（新採用）
	（組織農政課全般）
	蒔苗 文彦（囑託）
	新渡戸 衣子（派遣）

経営対策部	
部長	山田 潤
次長	新谷 優（津軽地区JA担当）
課長	西村 健（県南地区JA担当）
	若松 哉子（派遣）
経営企画課	
課長	一戸 和雄
調査役	佐藤 悠
	古川 智丈
	田中 良太
	野井 麻由香（新採用）
教育研修課	
課長	木村 友子
副審議役	相馬 崇志
	山田 久雄（囑託）

（総務企画部付出向）

みのり監査法人	
専任審議役	田村 幸一
専任考查役	平田 佑介
副調査役	木村 稔喜
	村上 雄大
	松澤 秀治（囑託）
	野呂 文人（囑託）



## JAカードは特典が盛りだくさん！ ご入会とご利用でQUOカードやポイント をゲットしよう!!

JAバンク青森では、「新規ご入会者様特典」として、2024年4月1日（月）から2025年3月31日（月）までの間に、JAの窓口でJAカードをお申込みされた方へ、もれなく1,000円分のQUOカードをプレゼントする。

また、「ご紹介者様特典」として、紹介を受けたJAカード未利用者が、2024年4月1日（月）から2025年3月31日（月）までの間に店頭で新規にJAカードをお申込みいただいた場合に、ご紹介者に1,000円分のQUOカードをプレゼントする。

ご紹介者様特典の流れは、次のとおり。

1. ご紹介者がJA窓口にて備え付けのチラシ裏面【紹介用紙】に必要事項を記入し、ご紹介を受ける方に渡す。
2. ご紹介を受けた方は、①の【紹介用紙】をJA窓口にて持参し、所定の手続きを行う。
3. ご紹介者に1,000円分のQUOカードをプレゼント。

（「新規ご入会者様特典」「ご紹介者様特典」とともに、Webでのお申し込みは対象外）

さらに、新規入会特典として、ショッピングご利用で最大12,000円相当のポイントがもらえるほか、すでにJAカードをお持ちのお客さまも、JAカードならではの様々な特典が受けられる。

JAカードご利用特典は次のとおり。

### 【特典①：ご入会サクスプレゼント】

JAカード入会日（カード発行日）から3か月後末日までのショッピングご利用合計額に応じて、20,000円ご利用ごとに3,000円相当、最大で12,000円相当のポイントをプレゼント。

新規に入会した本人カード、家族カードが対象で、カードごとに応募登録（WEB会員サービス「Net Branch」からエントリー）が必要。

ショッピングご利用合計額	プレゼントポイント数
2万円以上（～4万円未満）	750ポイント（3,000円相当）
4万円以上（～6万円未満）	1,500ポイント（6,000円相当）
6万円以上（～8万円未満）	2,250ポイント（9,000円相当）
8万円以上	3,000ポイント（12,000円相当）

※特典の相当金額はポイント交換でキャッシュバックをご選択された場合の金額（1ポイントを4円換算で交換）を記載しています。

JA CARD

JAカードのお申し込みは今がチャンス!

年会費無料

1 新規ご入会者様特典  
実施期間 2024年 4/1(月)～ 2025年 3/31(月)

2 ご紹介者様特典  
実施期間 2024年 4/1(月)～ 2025年 3/31(月)

QUOカード  
1,000円分プレゼント!

GIFT CARD

対象期間中

① 店頭でJAカードを新たにお申し込みいただいた場合、ご入会者様に  
② ご紹介いただいた方がご紹介用紙(裏面掲載)をご持参のうえ、店頭にてJAカードをお申し込みいただいた場合、ご紹介者様に

もれなくQUOカードをプレゼント!!

webでのお申込みは対象外となります

●詳しくはお近くのJA窓口へお問い合わせください。

### 【特典②：携帯電話利用料金のお支払いでポイントプレゼント】

携帯電話料金の決済を新たにJAカードで行った会員（本人カード、家族カードとも対象。新規・既存は問いません。）に対して、250ポイント（1,000円相当）をプレゼント。

応募登録は不要で、携帯電話料金の決済が確認できれば自動的にポイントが付与される。

※対象となる携帯電話利用料金は「NTTドコモ」「au」「ソフトバンク」「ワイモバイル」です。

### 【特典③：JAカードのご利用でいつもお得】

- ✓ JA直売所・ファーマーズマーケットでJAカードをご利用いただくと、ご請求時にご利用金額の5%を割引。
  - ✓ JA-SSでJAカードをご利用いただくと、ご請求時に1ℓにつき2円割引。
  - ✓ JA直売所・ファーマーズマーケット・JA-SSを除いたJAグループの店舗（Aコープ・JAタウンなど）でJAカードをご利用いただくと、通常ポイントにくわえてご利用金額の2%相当金額をポイントで還元。
- ※一部対象外の店舗・施設や商品・サービスがあります。

新規ご入会者にとっても、既にご利用いただいている方にとってもますますお得になったJAカードを是非ご利用を。詳しくはお近くのJA窓口まで。

## 令和6年度 農林中央金庫青森支店配置図 (令和6年4月1日付)

支店長 桐原 豊彦		副支店長 村田 裕之				
コーポレートサービス班			担い手金融班		営業班	
(総務：017-762-4400)		(窓口：017-762-4407)	(系統決済：017-762-4409)		(017-762-4402)	(017-762-4404)
次長 山口 将治 新谷 則子 木村 真喜子 大水 秀之 夏目 麻依子		次長 山口 将治 鹿内 之 木村 柊子 奈良崎 玲子 新田 佳子 柳川 由幸 田中 真菜美	次長 山口 将治 粟谷 秋博 鹿島 美奈 猿賀 香澄 對馬 萌 藤原 雪乃 福士 かれん		次長 西 公彦 鳴海 修吾 簡野 弘毅 鷺尾 祐輔 三上 賛	岩本 和也 上北田 春紀 工藤 健斗 永井 麻美子 大島 咲和 豊川 一彦 坂 達徳
副支店長 村田 裕之		副支店長 平井 健				
営業班 (017-762-4403)		J Aバンク総括班 (017-762-4410)	J Aリテール企画班 (017-762-4415)	J A指導相談班 (017-762-4417)	J Aシステム企画班 (017-762-4414)	
次長 相馬 晶子 小倉 庸幸 最上 静 葛西 瑤子 高橋 飛鳥		次長 太田 康佳 渋谷 拓治 吉川 雅也 木下 春彦 長内 昇平 有本 翔 戸田 光祐 山本 美弥子 能森 恵佑 佐々木 優惟	次長 葛西 智恵美 小浜 雅史 對馬 武 中島 悠斗 神 大貴 木村 史勇留	次長 鶴賀 学 小川 奨 鈴木 学 中澤 京義 須藤 明日香 貴田 航一朗 小笠原 茂 新岡 修	次長 福島 毅之 滝田 浩史 船橋 佳於	

## 令和6年度 株式会社青森県農協電算センター配置図 (令和6年4月1日付)

取締役センター長 鎌田 政行		副センター長 工藤 憲明				
総務部 (017-729-8460)		業務部 (017-729-8540、8735)			管理経済部 (017-729-8500)	
部長 長内 一興 部長代理 中野渡 郁子 主任 畑山 順彦 藤原 まりの		部長 工藤 憲明 部長代理 菅原 広大 主任 佐藤 全孝 主任 諏訪 智徳 副調査役 今 薫	清野 恵祐 岡田 圭裕 小鷹 悠輔 高橋 慶至 高田 海 蝦名 勇斗 新宅 博寿 久保田 和人 天内 優晴	部長 濱中 大介 部長代理 小館 一浩 主任 佐藤 晃穂 主任 関 洋幸 調査役 小田桐 紗織 齋藤 紀文 佐々木 将 長内 侑也 佐々木 壱晟 柴谷 晨陽		
青森県農協会館管理委員会事務局長 天内 賢司						

### 行事 (4/10~5/10)

農林中央金庫		農協電算センター	
4月		4月	
18日 営業店システム導入にかかる県域説明会 (ウェブ会議)		11・25日 営業店システム座学研修 (ウェブ会議)	
24日 令和6年度青森県J A信用・共済事業合同推進大会 (ホテル青森)		5月	
		8日 定時取締役会 (県農協会館)	



## 令和6年度 職員配置一覧

県本部長	成田 具洋
副本部長	笹森 俊充
副本部長	長内 暁

### 管理部

部長	工藤 彩子	
次長	今本 和寿	
企画管理課	課長	(今本次長事務取扱)
	課長代理	鹿内 昭智
		加藤 彩乃
		泉 谷和美
コンプライアンス課	嘱託(再雇用)	中屋敷 淳一
	臨時	横山 由果
	課長	佐藤 貴洋
	課長代理	山形 麻美
総務人事課	課長	齊藤 仁志
	課長代理	平舘 慶徳
		渡邊 豊人
		佐藤 陽子
	嘱託	唐牛 由美子
	臨時	伊藤 達也
広報宣伝総合課	臨時(短期)	沼上 和幸
	課長	木村 一彦
	課長代理	千田 佳央
		狩谷 佳孝
		三浦 真由子
		横山 美智子
アグリショップ青森店	所長	高橋 次郎
	臨時	山田 真貴子
	臨時(短期)	工藤 夕湖

### 営農部

部長	小田桐 聡	
次長	相場 仁	
営農支援課	課長	奈良岡 寛久
	課長代理	田中 嗣巳
		中川 洋平
		盛陽 祐
	(新採用)	中田 春日
	嘱託(再雇用)	吉田 裕一
営農技術課	臨時(短期)	淡谷 扶美子
	課長	佐々木 勉
	課長代理	今沙 織
		岡山 康博
		山形 拓
		宮塚 暢子
		兼平 莉里佳
		工藤 亘晟
		土岐 鈴夏
		佐藤 滉士
土壌分析センター	(新採用)	石塚 大城
	所長	(佐々木営農技術課長事務取扱)
	臨時	田中 真紀子



### 米穀部

部長	長内 敏也	
次長	種市 雅彦	
米穀総合課	課長	(種市次長事務取扱)
	課長代理	石山 伸吾
		田村 由一
		今野 彩
	嘱託	薬師神 竜広
	嘱託(短期)	田中 隆之
米穀流通課	臨時	風晴 清政
	臨時	深堀 真紀子
	課長	乙部 高雄
	課長代理	増田 勝秋
		高橋 結香
		山形 壮平
米穀販売事務所 大阪駐在		黒滝 京平
		松田 秀平
	嘱託	奥本 瑠美
	嘱託(再雇用)	白戸 康浩
	臨時	石澤 早希
	所長	北田 健朗
パルライス販売課		太田 春樹
	課長	村田 武志
	課長代理	森 伸治
		和嶋 靖晃
		越田 茂輝
		平澤 亜美
		石川 達也
	嘱託	新野 勇太
	臨時	大杉 梨加
	所長	高橋 良豪
パルライスセンター		松江 佳博
		山中 大資
	嘱託(再雇用)	倉内 恒明
	臨時	大瀬 寛士
	臨時	奈良 学
	臨時(短期)	佐渡 一平
	臨時(短期)	阿部 佳幸
	臨時(短期)	横内 寛紀

### りんご部

部長	川村 浩史	
りんご課	課長	福嶋 静
	課長代理	西口 康朗
		成田 誠
		柳町 歩己
		竹村 光平
		織笠 綜志
	(新採用)	小嶋 千尋
	嘱託(再雇用)	伊藤 美樹子
	臨時	齊藤 美樹子





やさい部			
部長	坂本 浩		
やさい花き課	課長	高山 哲也	橋 雅也
	課長代理	成田 淳子	相馬 洋一
		加藤 優和	苦米地 勇誠
		紙谷 咲彩	村 上 淳
	嘱託	石川 浩人	北山 みか
	嘱託(再雇用)	秋元 陽貴	畑山 俊一
	臨時(短期)	宮本 昌浩	前田 晃良
		澤田 勇生	成田 こな美
		松村 沙織	
やさいパッケージセンター	所長	秋元 陽貴	畑山 俊一
		宮本 昌浩	前田 晃良
		澤田 勇生	成田 こな美
		松村 沙織	

青果販売事務所			
東京青果販売事務所	事務所長	岩 淵 弘安	石 塚 照悟
		安 田 真悟	葛 西 逸平
	臨時	林 文久	智 子
		亀 田 智久	石 井 裕貴
名古屋青果販売事務所	事務所長	石 井 裕貴	浅 野 ひろみ
	臨時	佐々木 正至	梅 村 佳子
		山 内 大輔	
大阪青果販売事務所	事務所長	梅 村 佳子	山 内 大輔
		浜 野 千恵	向 井 勝美
	臨時	矢 野 良美	
福岡駐在	臨時(再雇用)	矢 野 良美	

畜産酪農部			
部長	三 湯 謙		
畜産酪農課	課長	七 戸 貴資	大 橋 綾子
	課長代理	高清水 祐一	佐々木 将志
		赤 石 健太郎	工 藤 絵里
	嘱託	中 谷 廣幸	鈴 木 真規
	嘱託(再雇用)	駒 井 博史	今 村 卓嗣
		今 勝	加 賀 久美子
	臨時(再雇用)	岩 崎 崇仁	織 笠 豊
畜産事業センター	所長	鈴 木 真規	駒 井 博史
		今 村 卓嗣	今 勝
		加 賀 久美子	岩 崎 崇仁
		織 笠 豊	
牛乳冷却処理所	所長	岩 崎 崇仁	織 笠 豊

購 買 部			
部長	三 浦 強		
次長	桑 田 和 仁 藤 田 匡 臣		
肥料農業総合課	課長	成 田 巨樹	中 谷 五美
	課長代理	米 塚 幸子	三 上 功多
		鶴 谷 真央	佐 藤 彩
	嘱託	棟 方 瑠理	須 藤 雅樹
	臨時(短期)	今 平 裕也	金 澤 展嗣
		長谷川 欣哉	川 村 光博
		岡 村 達也	工 藤 永真
		佐々木 海斗	木 村 成子
	臨時	岩 下 愛	宮 腰 陽子
	臨時(短期)	藤 島 祥子	

八戸駐在	所長	岡 田 大佑	山 崎 隆行
	臨時	成 田 文朋	齋 藤 浩一
	臨時	野 呂 順一	木 村 伸夫
	臨時	熊 野 忠志	小 熊 泉誠
	臨時	工 藤 弘貢	大 柴 文孝
	課長代理	八 戸 俊輔	長 尾 浩誠
農機農業資材課		岡 本 雅子	小 田 桐 泰
		大久保 義男	津 島 勲
		小 枝 祐斗	目 黒 旭人
	臨時(短期)	長 尾 和朋	
生活課	課長	(桑田次長事務取扱)	
	課長代理	中 谷 貴昌	前 田 康宏
	嘱託(再雇用)	今 正守	前 田 千賀子
	臨時	新 藤 歩	成 田 建生
	嘱託所長	武 井 将太郎	野 月 仁光子
	臨時	前 田 哲	
八戸駐在	課長	(桑田次長事務取扱)	
	課長代理	中 谷 貴昌	前 田 康宏
	嘱託(再雇用)	今 正守	前 田 千賀子
	臨時	新 藤 歩	成 田 建生
県南LPガスサポートセンター	嘱託所長	武 井 将太郎	野 月 仁光子
	臨時	前 田 哲	
津軽葬祭センター	所長	(前田津軽葬祭センター所長事務取扱)	
やすらぎホールつがる	所長	(前田津軽葬祭センター所長事務取扱)	
県南葬祭センター	所長	岩 田 哲 欣	

本 所			
園芸部(事業開発課)		原 子 悠 基	
	耕種総合対策部東北営農資材事業所(TAC・生産対策課)	木 立 将 志	
施設農住部東北広域施設事業所(青森施設事務所)	所長	齋 藤 憲 史	
	嘱託(再雇用)	笠 井 洋 介	
	臨時(短期)	小 山 内 隆 浩	
	課長	福 士 愛 美	
総合エネルギー部 東北エネルギー事業所(青森推進課)	課長代理	岩 崎 哲 也	
		飯 田 裕 樹	
		最 上 進 一	
		白 川 巧	
		杉 田 拓 哉	
		半 田 拓 朗	
	嘱託(再雇用)	岡 元 るみ子	

出 向			
J A 青森中央会総務企画部		工 藤 里 佳	
J A 青森中央会農業対策部		石 田 隆 徳	
青森県産米需要拡大推進本部(公社)青森県農産物改良協会	嘱託(再雇用)	関 谷 龍 一	
(一社)津軽中央共同倉庫	臨時	枋 泉 光	
王子製袋(株)		木 谷 慶 志	
昭和ボックス(株)	嘱託(再雇用)	沼 田 友 行	
(公社)青森県青果物価格安定基金協会(一社)上十三広域農業振興会		棟 方 清 治	
J A 全農北日本くみあい飼料(株)		川 村 恵 樹	
東北生乳販売農業協同組合連合会		平 山 智 樹	
青森県牛乳普及協会	臨時(短期)	福 士 文 浩	
片倉コープアグリ(株)	嘱託(再雇用)	齋 藤 幸 樹	
日本肥糧(株)		鈴木 沙代子	
クミアイ化学工業(株)	嘱託(再雇用)	福 士 学 明	
北東北スカイテック(株)		泉 谷 勝 明	
J A 三井リース(株)		下 山 真 治	
青森三八五流通(株)		泉 谷 剛	
		竹 達 広 治	
		佐々木 浩 蔵	

## 全農全国高等学校カーリング選手権大会

J A全農が特別協賛する「第19回全農全国高等学校カーリング選手権大会」が2月8から11日までの4日間、青森市のみちぎんドリームスタジアムで開かれた。主催は、公益社団法人日本カーリング協会、青森市、全国高等学校カーリング選手権大会実行委員会。

優勝したのは、男子の部で青森・長野合同（東北ブロック）、女子の部で北海道選抜（北海道ブロック）。それぞれに県産米「青天の霹靂」と「はれわたり」を合計150<sup>kg</sup>、県産和牛2<sup>kg</sup>が贈られる。

同大会恒例のもぐもぐブースでは、選手らに試合前後の栄養補給に役立ててもらおうと様々な商品を用意。県産品を使用したおむすび、カトルりんご、ジュースなどを振舞った。全農が展開するニッポンエール商品の果実グミや乳製品なども合わせて全44種類。「おむすびが美味しい」などの声があり、ゆでたまごやりんごジュースも人気であった。

全農は食を通じてアスリートをサポート・応援する取り組みを進めている。同大会への協賛はその一環で、他にも卓球やサッカー等のサポートもしている。



▲もぐもぐブース商品で栄養補給する選手ら

## 購買担当者窓口研修会

J A全農あおもりは2月15、16日の2日間、青森市の県農協会館で購買担当者窓口研修会を開き、県内J Aから担当者ら約30名が参加した。

J A窓口担当者の対応力強化を目的に開いたもの。上手な話し方・伝え方を学ぶとともに、肥料農薬や葬祭、土づくりなど、購買事業全般に係わる基礎知識を学んだ。

「呼吸とコミュニケーション」と題して講義をしたのは、青森朝日放送(株)アナウンサーの坂本佳子さん。聞き方・伝え方のポイントとして「自分の話しやすさより相手の聞きやすさを重視すること。一方的に伝える場合は『間』を大切にすること」などを紹介した。

また、肥料農薬事業の新たな取り組みをはじめJ AグループがすすめるBB肥料について共有があったほか、系統の肥料・農薬メーカー12社か

ら各社の商品説明があった。

全農あおもり営農購買部の三浦強次長は「農家・組合員の期待に的確に応えられるよう、研修で得た知識を現場で活かして欲しい」と話した。



▲研修を受ける担当者ら

## ながいも優良種苗検討会

J A全農あおもりは2月16日、青森市の県農協会館で令和5年度ながいも優良種苗検討会を開き、県内J A担当者らが出席。5年産配布種苗について確認するとともに、各J A採種ほ場の体制などについて情報共有した。

5年産種苗は、県内5 J Aに13万5千本配布する予定であることを報告した。本年は、夏場の高温や干ばつの影響から、細長いものが散見されるが、種苗としては問題ないことを説明した。5年産種苗は、3月7日に各J Aに配布され、春先から始まる6年産の植え付けに使用される。

むかごの生産をするJ A採種ほ場について「種苗生産者の高齢化が課題。後継者の確保や、種苗更新に対する意識向上が必要」などの意見が寄せられた。

優良種苗事業は、ながいもの形質向上と安定生産を目的としており、増殖した1年子を種苗として供給するもの。ウイルス症状の発生が少なくなるよう管理したもの、品種固有の形状・色沢を有するものなど、基準が定められている。

J A採種ほ場は県内9箇所、原種ほ場は県内5箇所に設置している。

全農あおもりやさい花き課の竹達広治課長は「優良種苗事業は、収量増に繋がる対策の一つ。系統共販ながいもの安定生産に向けて協力をお願いしたい」と呼びかけた。





## りんご高密度植わい化栽培総合検討会

J A全農あおもりは2月20日、青森市の県農協会館で「りんご高密度植わい化栽培総合検討会」を開き、令和5年度に行った本栽培法における各種調査結果や今後の取組方針について関係者と協議を行った。

県内4か所に設置した定植7年目を迎えた実証園地では、10a当たりの収量は前年より増加。概ね6tを超え、対象区と比較すると約2tの増となった。

また、記録的猛暑が続いた5年産の厳しい栽培条件下であっても、玉の揃いや糖度は良好で、均質な果実が生産されていた。

経済性を評価している定植4年目の園地では、収量が前年の約2倍となり順調に増加した結果に。累計所得も当初の想定通り順調に増加している。

次年度も引き続き、果実品質や経済性などを調査・検討していくとともに、更なる普及に向けて、フェザー苗木や関連資材の安定供給に加えて、技術支援等についてもJ Aグループ一体となって取り組むこととしている。

全農あおもりは、わい化栽培の一つの選択肢として、先進的に取り組みを進めているJ A全農長野などの協力を得て、早期多収・品質の均一化・省力低コスト生産が期待できる高密度植わい化栽培の推進を図っている。

今後も本栽培法による生産基盤の強化を図り、生産量の維持・拡大と系統出荷率の向上に努めていくこととしている。



▲次年度の取り組みに向けて協議する出席者

## J A農業機械担当課長・MC所長研修会

J A全農あおもりは3月5日、青森市の青森県総合社会教育センターで「J A農業機械担当課長・MC所長研修会」を開き、令和5年12月に型式が決定した共同購入コンバインの仕様について学んだ。

同機体は、ヤンマーアグリ(株)の「YH448AEJU」で、6年4月から出荷開始となる。4条刈50馬力で、同クラスの機体と比較すると約15%の価格引き下げを実現したものだ。

参加者は現行機との違いを学んだ。自動で燃費を低減するオートデセル機能や、機体の軽量化、手こぎ安全装置など。

参加者は実機を見ながら、点検作業性の向上した箇所や変更点の確認などを行った。

この他、農業機械情勢や、農作業事故の注意喚起について研修した。

共同購入とは、J A全農が生産者の需要を取りまとめ同一型式の発注を行うことで、メーカーが製造・流通を効率化でき、製造コストを削減できること、J Aグループが全国の生産者の声を反映し、積み上げた必要台数を背景にメーカーに開発要求を実施することによって、生産者の購入価格の引き下げを実現したものだ。



▲現行機との違いを確認する参加者

## ネット環境を使った圃場管理説明会

J A全農あおもりは、栽培管理支援システム「ザルビオ」の推進を行っている。同システムは、衛星画像とAI分析による栽培管理システムのこと。パソコンやスマートフォンアプリからダウンロードし、使用できる。農地の一覧化や圃場の地力・生育状況の表示や生育ステージ予測、病害の発生予測を確認できる。

3月5日、J A青森主催の「J Aネット環境を使った圃場管理説明会」で農薬メーカーのBASF ジャパン株式会社の担当者と、同システムについて説明した。J A青森青壮年部平内支部から6名が出席し、利用した部員から「圃場登録が簡単。面積まで表示され、とても便利」と話があった。



▲説明する担当者



J A青森青壮年部平内支部の千代谷仁司支部長は「ザルビオを上手く使いこなすと、スマート農業に活かせると思い、この説明会を開催した。コロナによる行動制限が緩和されたので、今年は圃場の視察やスマート農業を間近で見られるような研修を計画し、実施したい」と話した。

### 令和5年度営農指導員研修大会

J A全農あおもりは3月7日、青森市の県農協会館で「令和5年度営農指導員研修大会」を開いた。県内J Aから営農指導員ら約40人が参加。営農指導員としての心構えや各J Aの取組事例などを共有した。

取組事例発表では品質向上を目的とした試験や若手農家をターゲットにした活動など、各J Aの取組8事例が発表され、J A相馬村の佐々木善久さんが最優秀賞を受賞。「J A離れについて考える～若手農家を軸とした取組～」と題した取組を紹介した。青年理事という若手農家の代表としてJ Aの運営へ参画することや、若手指導員が現場に出向くことで、互いのスキルアップやより良いコミュニケーションに繋がることを参加者に訴えた。

また、「『より良い営農活動』J A事業に貢献するための営農指導の役割と対応について」と題して、J A全中の高橋昭博氏が講演した。

全農あおもりでは、引き続き研修会を通して、営農指導スキルの向上を支援していく。

最優秀賞以外の受賞者は次のとおり（カッコ内は所属）。

【優秀賞】古川麻衣子（J A十和田おいらせ）【特別賞】古川賢一（J Aつがる弘前）



▲表彰を受ける佐々木さん

### ドローンによる融雪剤散布実演会

J A全農あおもりは3月7日、階上町のJ A八戸管内ほ場でドローンによる融雪剤散布実演会を開き、県内J Aから営農指導員ら約14人が参加した。

通常は手で炭の粉等を散布するが、ドローンを使うと省力化に。豪雪によるながいもの春掘り作業の遅れを解消させたり、ドローンの稼働率向上

に繋がる。

今回ドローンで使用した資材「ハイフミン特号粉粒状」は、雪解け後、土壌改良資材として物理性・保水性の改善に役立つことが期待できる。



▲ドローンの実演で省力化を確認する

### 鹿児島フェア in 青森

J A全農あおもりは3月9、10日の2日間、青森市の青森県観光物産館アスパムで、J A鹿児島県経済連とのコラボイベント「鹿児島フェア in 青森」を開いた。約40点の鹿児島県産農畜産物・加工品を販売したほか、青森県産農産物も販売し、双方特産品の認知度向上および消費拡大を促した。

2日間の来場客は約1800人。

9日には鹿児島県出身のお笑い芸人、サンシャイン池崎さんによるトークショーを実施。同ショーでは両県産品を美食し、会場を盛り上げた。購入客からは「黒豚がおいしくて2日目も買いに来た」「ミカンやサツマイモを食べるのが楽しみ」と声があった。

コラボは5回目。令和5年12月に鹿児島市内で青森フェアを開いた。



▲商品の説明を聞く客

### 行事（4/10～5/10）

5月  
8日 運営委員会（県農協会館）

# 令和6年度 職員配置一覧

<令和6年4月1日付>

本部長	沼田 博文
-----	-------

副本部長	葛西 真司
------	-------

## 管理部

部長	福田 光明
次長	工藤 学
<b>企画管理課</b>	
課長 (次長兼務)	今 陽子
	菊池 まき子 (嘱)
<b>総務人事課</b>	
課長	織笠 勝則
	岩谷 拓朗
	三上 幸代
	花井 由美
	佐藤 光祥 (嘱)

## 事業推進部

部長	島元 貢
次長	相坂 康人
	水嶋 誠
<b>推進企画課</b>	
課長	矢野 慶明
	中谷 勝 (審)
	工藤 修
	長内 克文
	坂井 貴子
<b>推進支援課</b>	
津軽地区担当 (青森・五所川原)	
課長	倉本 一仁
	佐藤 昂平
	松本 詩音乃
津軽地区担当 (弘前)	
課長	櫛引 大介
	小湊 祥太郎
	櫛引 星希
県南地区担当	
課長	森本 正宝
	工藤 雅士
	舘田 卓磨
	古川 浩子
	吉崎 麻子 (嘱)
<b>地域貢献課</b>	
課長	須藤 巧
	戸川 真友美
	土田 華鈴 (嘱)

## 代理店事業課

課長	水嶋 誠 (次長兼務)
	藤田 真紀子
	佐々木 舞 (嘱)

## 業務部

部長	七戸 俊文
次長	白戸 康弘
<b>業務総合課</b>	
課長 (次長兼務)	千葉 幸喜
	工藤 まどか
	亀田 朝子
	工藤 真由美
	高松 珠美
<b>体制整備支援課</b>	
課長	室谷 栄司
	中野 雅寿
	小倉 倫子 (嘱)
<b>建物査定課</b>	
課長	沼田 邦広
	大水 伸彦
	小形 憧
	村川 真悠
	三浦 友美
	坂本 公利 (嘱)
	西田 一明 (嘱)
	佐藤 朋子 (嘱)



## 自動車損害調査部

部長	中野 博人
次長	成田 和智
交通事故相談所長	(部長兼務)
交通事故相談所 参与	野崎 真人 (嘱)
<b>自動車損調総合課</b>	
課長	(次長兼務)
	佐野 茂 (審)
	福井 美奈未 (嘱)
<b>青森中央自動車損害調査SC</b>	
SC長	吉井 基郎
課長	田中 学
	中村 琢也
	安部 龍一
	福井 恵
	升田 昭人 (嘱)
	今 拓道 (嘱)
	川村 巳智仁 (嘱)
	庄司 豊 (嘱)
	澤田 一雄 (嘱)
	平山 暢寿 (嘱)
	横山 順子 (嘱)
	清水 七恵 (嘱)
<b>弘前自動車損害調査SC</b>	
SC長	吉川 勉
課長	前原 達明
	蛭名 茂和
	鈴木 幸子
	工藤 百恵
	沼山 定継 (嘱)
	三上 晃 (嘱)
	小田桐 清光 (嘱)
	鎌田 真那美 (嘱)
	山賀 真優美 (嘱)
	田村 準人 (臨)
	小山内 和久 (臨)



## 青森県南自動車損害調査SC

SC長	沼山 正幸
課長	石岡 一弥
	細川 聖司
	工藤 伸行
	深沢 隆
	阿部 重宣 (嘱)
	佐々木 政敏 (嘱)
	福田 千恵美 (嘱)
	日野口 かおり (嘱)
	藤井 直人 (嘱)
	星 明廣 (嘱)
	竹内 麻里佳 (嘱)
	若松 孝文 (臨)

## 出 向 等

(理事長特命)	内部監査役	太田 学志
(全国本部東北地区業務センター)	課長	坂本 一
( )	〃	菊地 雄大
( )	〃	佐藤 薫
(管理部付青森県農協中央会出向)		相馬 一之

## 行事 (4/10~5/10)

- 4月**
- 12日 Lablet's 操作研修会 (新任L Aコース) (青森県農協会館)
  - 15~17日 J-WAYS基本編・活動編研修会 (青森県農協会館)
  - 18日 Lablet's 操作研修会 (新任スマサポ・担当者コース) (青森県農協会館)
  - 22~23日 共済基礎知識研修会/契約事務コース (オンライン)
  - 23日 自動車共済事故受付・現場急行研修会 (青森県農協会館)
  - 24日 令和6年度青森県JA信用・共済事業合同推進大会 (ホテル青森)
  - 25日 安心サポーター任命時必須研修会 (青森県農協会館)
  - 25~26日 共済基礎知識研修会/共済端末機操作コース (青森県農協会館)
  - 30日 共済基礎知識研修会/共済端末機操作コース (青森県農協会館)
- 5月**
- 1日 共済基礎知識研修会/共済端末機操作コース (青森県農協会館)
  - 8日 運営委員会 (青森県農協会館)
  - 9日 共済担当管理者研修会 (オンライン)



農林水産省の補助金等の交付を受ける方へ

## 令和6年度から 「環境負荷低減のクロスコンプライアンス」が試行実施されます

### 「環境負荷低減のクロスコンプライアンス」とは

農林水産省の補助金等の交付を受ける場合に、みどりの食料システム法の基本方針に示された「農林漁業に由来する環境負荷に総合的に配慮するための基本的な取組」に基づいた最低限の内容を実施いただくものです。環境にやさしく、生産性も高い農業を確立することを目的としています。

令和9年度を目標に全ての事業を対象に本格実施することになりますが、まず令和6年度は事業申請時のチェックシートの提出に限定して試行実施を行います。補助金等の交付を受けようとする場合は、事業申請時に、環境負荷低減のクロスコンプライアンスチェックシートを用いて、取り組む内容をチェックして提出する必要があります。

### 環境負荷低減のクロスコンプライアンスのイメージ

今後、農林水産省の全ての事業において、最低限行うべき環境負荷低減の取組の実践を要件化することにより、支援の実施により新たな環境負荷が生じないようにします。



#### 最低限行うべき取組(例)

- 肥料・農薬の使用状況の記録・保存 → 使用量を把握して次期作に向けた化学肥料・化学農薬の使用量の低減につなげる
- 作物の生育や土壌養分に応じた施肥 → 必要な量だけの施肥を行い、化学肥料の使用量の低減につなげる
- 農薬ラベルの確認・遵守、農薬の飛散防止 → 周辺環境への影響を最低限にする
- 電気・燃料の使用状況のこまめな確認、記録・保存 → 使用量を把握して不必要・非効率なエネルギー消費を防ぐ

チェックシートの項目は、みどりの食料システム法に基づく国の基本方針において示された農林漁業に由来する環境負荷に総合的に配慮するための基本的な以下の7つの取組に基づいて設定されます。

適正な施肥

適正な防除

エネルギーの節減

悪臭・害虫の発生防止

廃棄物の発生抑制  
適正利用・適正処分

生物多様性への悪影響の防止

環境関連法令の遵守等

例) 肥料の使用状況の記録・保存  
作物の生育や土壌養分に応じた施肥等

農薬の使用状況の記録・保存  
農薬ラベルの確認・遵守、農薬の飛散防止等

電気・燃料の使用状況の記録・保存等

家畜排せつ物の適正な管理等

プラスチック製廃棄物の削減や適正処理等

病害虫の発生状況に応じた防除の実施等

営農時に必要な法令の遵守  
農作業安全に配慮した作業環境の改善等

詳細はこちら → <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/kurokon.html>



# 組織農政通信

## 「令和5年度JAグループ農政推進の集い」 および能登半島地震被害に対する見舞金贈呈

JA全中と全国農政連は3月7日、東京都千代田区の砂防会館で「令和5年度JAグループ農政推進の集い」を開いた。食料安全保障の強化や、食料・農業・農村基本法の見直しなど、これまでの農政運動の成果を踏まえた施策や予算等をJAグループで活用する機運を高めていくことを確認した。全国のJAグループや農政運動組織の代表者、与党国会議員ら約500人が集い、JAグループ青森からは雪田徹青森県農協農政対策委員長のほか6人の常任委員が参加した。



▲東京都で開催された農政推進の集い

主催者を代表して挨拶したJA全中の山野徹会長は、改正基本法・関連法案の国会審議や次期基本計画の策定が控えていることを踏まえ、「改正基本法の理念を、どのようにして施策として具体化していくかが問われる1年となる」と強調した。

来賓代表者として挨拶した自由民主党の江藤拓総合農林政策調査会長は、「今後数年が農業の正念場となる」との考えを示し、「食料安全保障の確立へ向け、生産者が未来を切り開けるような新しい施策を実現させたい」と述べた。同じく挨拶した自由民主党の森山裕総合農林政策調査会最高顧問と公明党の稲津久農林水産業活性化調査会長も、適正な価格形成に向けた法制化の必要性などに触れた。

最後にJA全青協の稲村会長がガンバロー三唱し、集会を締めた。

同日、大会を前に青森県農協農政対策委員会は、東京都千代田区のJA共済ビルでJA石川県中央会に対し、能登半島地震被害に対する見舞金を贈呈した。雪田委員長は「一刻も早く、県民および農家組合員の生活や営農活動が復旧、復興することをお祈りします」と同中央会の西沢耕一会長に目録を手渡した。

西沢会長は「頂戴した見舞金は大切に使用させていただきます、しっかり復旧、復興に取り組みたい」と述べた。



(中央会 農業対策部) ▲目録を手渡す雪田委員長と西沢会長 (右)

# 実践 農業者支援

## 令和6年度農業者支援事業等の主な取り組み

### 1. 農業者支援事業に関する協議・情報共有

#### (1) JA営農担当部課長会議の開催

農業者支援事業等に関する内容を協議・検討するため、5月・6月・2月をめぐりに会議を開催します。ただし、令和6年度については、第30回JA青森県大会の組織協議案を検討する必要があることから、5月の会議についてはJA営農担当常勤理事・部課長会議とする予定です。

#### (2) JAグループ青森四連農業者支援事業担当部課長・担当者会議

JAグループ青森四連および全国担い手サポートセンターにおける農業者支援事業の内容を協議・検討します。

#### (3) JA共済地域・農業活性化事業（中央会取組み分）

①農業労働力確保対策 ②アグリスクール ③食育ソムリエ 等の実施JAに対し助成を行います。

### 2. 新規就農者の育成・確保支援

#### (1) 新規就農者支援対策作業部会

新規就農者（事業承継含む）の育成・確保にかかる調査・研究およびJA間の情報共有を図るため、年3回程度開催します。また、新規就農者に対する聞き取り調査を実施し、課題の掘り起こしを行います。

#### (2) 新規就農者支援パッケージの策定支援・新規就農希望者相談窓口の設置支援

パッケージの策定や相談窓口の設置を希望するJAの支援を行うほか、新規就農希望者用パンフレットの作成や面談カード（様式）の更新を行います。

#### (3) 事業承継による後継者確保支援

事業承継（親元就農含む）および相続時に必要なJA職員向けの簡易マニュアルを更新するとともに、事業承継時の課題把握のための聞き取り調査を実施します。



### 3. 集落営農組織の連携・強化

集落営農組織の連携・強化に向けて、全国の実践状況の情報提供を行うとともに、集落営農組織の法人形態（農事組合法人、株式会社、合同会社）およびJA出資型法人等に関する調査・研究をすすめます。

### 4. 農業労働力確保支援

#### (1) 農業労働力確保対策作業部会

農業労働力確保にかかる調査・研究およびJA間の情報共有を図るため、年3回程度開催するほか、新たな外国人技能実習制度および無料職業紹介事業の制度改正に関する研修会を開催します。

#### (2) 企業による援農ボランティア等の受入

JAと連携して県内・県外企業の援農ボランティア等の受入を行います。

#### (3) 農作業無料職業紹介所支援

JAが行う農作業無料職業紹介事業を支援するとともに、無料職業紹介事業運用マニュアルの更新を行います。

#### (4) 青森県農業労働力求人マッチングサイトの運営・管理

マッチング率向上に向けて新聞折り込みによる農作業従事者募集チラシを配布するほか、ネット広告等の媒体の活用をすすめます。

#### (5) 農作業安全確保対策



全国農作業安全確認運動に合わせて、春作業・秋作業事故、熱中症対策等の啓蒙活動（資材提供）をJAと連携してすすめます。

## 5. 農業所得増大・安全確保支援

### (1) 青森県 JA 農産物直売所協議会

県内各JA直売所と連携したキャンペーンを実施するほか、店舗の経営改善に向けた研修会を開催します。

### (2) 安全確保支援（GAP・HACCP制度等）

よりよい営農活動（GAP・GH農場評価）やHACCP制度をはじめ、環境調和型農業や「みどりの食料システム戦略」等に対応するための研修会等を開催します。



## 6. 営農指導員育成強化

### (1) 初級—営農指導員向け研修会

① 営農指導初任者研修会

② 営農指導事業 meeting 【計4回】

③ 営農指導員コミュニケーション研修会（仮称） ★新規\_ 対組合員向けのコミュニケーション

### (2) 営農指導員資格認証指定研修会

営農指導員資格認証指定研修会 【施肥・防除・営農企画・農業経営・栽培】

### (3) 初級—中級\_ 営農指導員向け研修会

① 農業簿記実務研修会

② 農業税務実務研修会

③ 米政策基礎研修会（仮称） ★新規\_ 米政策の歴史・基礎知識の習得

### (4) 中級—営農指導員向け研修会

① 農業経営管理支援実務研修会

② 農業税務実務研修会

### (5) 青森県JA営農指導員実践大会

北海道・東北ブロック大会への出場者を決定するために県大会を開催します。

### (6) JA全中主催研修およびJA営農指導実践大会への参加負担金助成

農業者支援事業等にかかるJA全中主催研修会等の参加負担金について1JA1名分を助成します。

※対象研修会等は別途示します。



## 7. 農業経営管理支援体制の確立と人材育成

Web 記帳業務支援システムの利用支援および加入促進をすすめるほか、営農指導員育成と併せた各種研修会を開催します。また、令和5年度に引き続き事務合理化検討会議を開催し、業務の効率化について調査・研究をすすめます。

## 8. 地域農業振興計画策定支援・その他

### (1) 地域農業振興計画策定JAの支援

次世代総点検運動（10年後の地域農業）を踏まえ、農業者支援事業の実践や販売品目年代別実績データ（過去10年）等を活用した地域農業振興計画策定を支援します。

### (2) 営農指導事業機能・体制強化

新たな営農指導事業機能・体制強化方針の策定に向けて検討会議を開催します。

## 9. まとめ

令和6年度は、第29回JA青森県大会で決定した取組み事項（3カ年計画）の最終年度となります。重点実施事項である①新規就農者支援 ②農業労働力確保対策支援 ③営農指導員育成強化の前進に向けて取組んで参りますので、改めてご理解とご協力をお願いいたします。

（中央会 農業対策部）

# 経営の窓口

## 電子帳簿保存法改正に伴う電子取引データ保存の義務化

### はじめに

令和5年12月31日で令和4年度税制改正で措置された「宥恕措置」が廃止され、令和6年1月1日から、電子取引データの保存が義務となっている。既に対応していると思われるが、周知を兼ねて再度紹介する。

### 1. 電子帳簿保存制度とは

電子帳簿等保存制度は、税法上保存等が必要な「帳簿」や「領収書・請求書・決算書など（国税関係書類）」を、紙ではなく電子データで保存することに関する制度である。

記録の改ざんなどを防止する観点から、保存時に満たすべき一定の要件が電子帳簿保存法で定められている。

電子帳簿等保存、スキャナ保存、電子取引データ保存の3つの制度に区分されており、この中で、電子取引データ保存が義務化の対象となっている。

### 2. 電子取引データ保存の義務

申告所得税・法人税に関して帳簿・書類を保存する義務のあるものが、請求書等に相当するデータをやりとりした場合にはそのデータ（電子取引データ）を保存しなければならない。

対象となるデータは、紙でやりとりしていた場合に保存が必要な情報が含まれるデータが対象となる。具体的には、注文書・契約書・送り状・領収書・見積書・請求書等に相当するデータが対象保存となる。また、受け取ったデータだけでなく、送った場合にもデータのまま保存する必要がある。

ただし、データでやりとりしたものが対象であり、紙でやりとりしたものをデータ化しなければならないわけではない。

保存時の注意としてやりとりしたデータをプリントアウトした書面のみを保存する方法は認められず、電子取引データそのものを保存する必要がある。

また、ファイル形式は関係ないため、pdfに変換したデータや、スクリーンショットをしたデータで保存しても問題はない。

### 3. 電子取引データ保存の一定のルール

#### (1) 真実性の確保（改ざん防止）

真実性の確保は次のいずれかの保存を要する。

- ①タイムスタンプが付与されたデータを受け取る。
- ②保存するデータにタイムスタンプを付与する。
- ③データの授受と保存を、訂正削除記録が残るシステムや訂正削除ができないシステムで行う。
- ④不当な訂正削除の防止に関する事務処理規程を制定し、遵守する。

タイムスタンプとは、「電子データ」が“ある日時に存在していたこと”及び“その日時以降に改ざんされていないこと”を証明できるものであり、時刻認証業務によって付与される。

## (2) 可視性の確保

税務調査の際に税務職員にデータを提示できるようにする必要があり具体的には次に示す要件の全てを満たす必要がある。

- ①モニター・操作説明書等の備付け。
- ②検索要件の充足。
  - ・取引等の「日付・金額・相手方」で検索ができる
  - ・「日付・金額」について範囲を指定して検索ができる
  - ・「日付・金額・相手方」を組み合わせて検索ができる

なお、専用のシステムを導入していない場合は、以下のいずれかの方法で検索要件に対応することができる。

- ①表計算ソフト等で、索引簿を作成する方法
- ②規則的なファイル名を付す方法

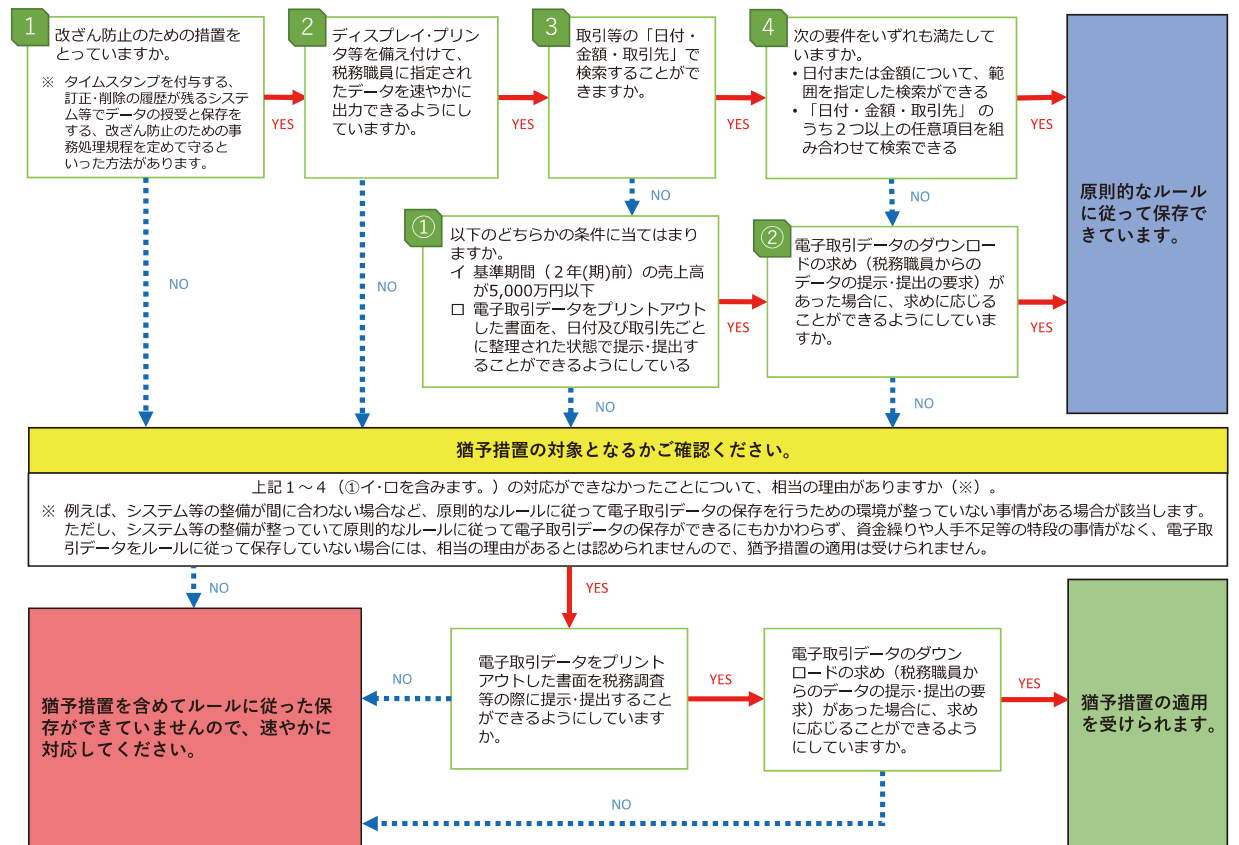
また、新たな猶予措置が整備され次の要件をいずれも満たしている場合は、保存時に満たすべき要件に沿った対応は不要となり、電子取引データを単に保存しておくことが可能とされた。

- ①保存時に満たすべき要件に従って電子取引データを保存することができなかつたことについて、所属税務署長が相当な理由があると認める場合
- ②税務調査の際に、電子取引データの「ダウンロードの求め」及びその電子取引データをプリントアウトした書面の提示・提出の求めにそれぞれ応じることができる場合

## 4. さいごに

最初に記したとおり、電子取引データの保存は義務となっているため、以下の確認図によりルールに則って適切に対応できているか再度ご確認ください。

### 電子取引データをルールに従って保存できていますか？【令和6年1月1日以後にやり取りする電子取引データ用】



国税庁ホームページ「電子取引関係 パンフレット」より引用

(中央会 経営対策部)



## 地元高校生と消費宣伝活動 スリーアップる！事業初年度終了

JAつがる弘前りんご部りんご課は、「りんごファンを増やそう」をテーマに2023年度より「スリーアップる！」事業を行っている。

つがる弘前リンゴの知名度向上と販売促進を図ることと、地域貢献活動の一環として地元高校生に学習の機会を提供することが目的。3か年計画で、県立弘前実業高等学校の生徒と共に、1年単位で新たな消費宣伝活動に挑戦している。

初年度は、同校家庭科学科の生徒と協同でリンゴを使用したカレー春巻きやコロケ、葛アイスなど5種類のレシピを考案し、買い物客が売り場でレシピを閲覧できるよう、QRコードを表示したA5サイズのPOP（店内広告）を作成した。

同高生徒らは2月上旬、JA職員と共に、神奈川県東急ストア中央林間店とフレルさざり沼店で販売促進活動を行い、生食以外のリンゴの美味しい食べ方を紹介しながら、買い物客にJAのリンゴをアピールした。

24年度は、新たなレシピ考案の他に、リンゴを入れるスタンドバッグの作成を同校生徒と共に行う。



販売促進活動を行う生徒



完成したポップ

## ピーマン部会販売報告会・通常総会

JAつがる弘前ピーマン部会は3月12日、弘前パークホテルで2023年産ピーマンの販売報告会と通常総会を開いた。23年産の販売数量は378.9ト（前年比104%）、販売単価1キログラムは544円（前年比129%）、販売金額は2億600万円（前年比134%）。18年度に部会員100人で販売金額1億円到達以降は、1億5000万円前後で推移し、23年度、部会員150人で初めて2億円を突破した。

JAの丸岡義昭常務は「経験したことのない厳しい条件下での栽培となったが、部会員の生産努力によって、販売額が2億円を突破した。今後もJAは、気象変動に対応する栽培技術の指導強化に努めていく」と話した。

販売報告会後の通常総会では、提出された議案全てが満場一致で承認された。



あいさつをする葛西利直部会長



# 輝き

農林中央金庫 青森支店  
営業班  
ながい まみこ  
永井 麻美子 さん

## ●プロフィール

2022年4月から勤務 東京都東久留米市出身 26歳

### — 働くきっかけは？

大学で農学を学ぶ中で、広く農業者を支えることで日本の農林水産業を発展させられるような仕事がしたいと考えようになりました。全国のJAと支えあいながら農業を経営面で支える農林中金の事業に共感し、入庫しました。

### — 業務内容を教えてください。

農業法人への営業・貸出を中心として、その他輸出や全国のニーズを活用したビジネスマッチングの支援、担い手コンサルティングなどを行っています。津軽方面の担当が多く、りんごや米の生産者とお話する機会が多いです。

### — 働いた感想は？

当然、農学と農業は全然違うのですが、農業経営者との対話で知識を深められること、得た知識を生かして生産者の役に立ちそうな提案をすることが楽しいです！的外れなこともあります。

### — 仕事をする上で、日頃心がけていることは？

しっかり相手の話を聞き、意図を正しく理解しようと努めています。また、分からないことを放っておかないように気を付けています。

### — 特技・趣味は？

コーヒーが好きで、美味しい喫茶店を見つけたらつい豆を買ってしまいます。休日にガリガリと豆を挽いている時間が好きです。

### — あなたが自慢できることは？

昔合唱をしていたおかげか、低い声から高い声まで（3オクターブ）出ます。

### — 将来の夢は？

広い視野・知識を持ちつつ、地域の農業者およびJAに貢献できる人になりたいです！  
プライベートでは、青森県内の温泉に行きつくしてみたいです（多すぎてびっくりしました）

## 農家・環境に優しく 紙製の育苗資材使用



播種作業の準備を進めるJA職員

JAごしょつがるでは、五所川原市の育苗施設で、生産者へ提供する各種野菜苗の育苗作業が始まっている。ネギ苗は約15人の生産者から、育苗箱で1,300箱の注文を受けており「チェーンポット」を使用した播種作業を開始している。

「チェーンポット」とは紙製の育苗資材で、そのまま定植できるためプラスチックごみが発生しない。また、専用の移植器を使うことにより、ポットが繋がったまま株間を等間隔に定植でき作業が省力化する。JAのSDGs取組方針の中で重点目標として掲げている環境保全型農業の推進に取組み、目標12「つくる責任 つかう責任」の達成を目指す。

同施設では、ネギ苗の他に組合員が接ぎ木したメロン苗を引き継いで管理し、各生産者へ供給。品質の良い苗の安定供給を目指し、引渡し時期まで品目に応じた栽培管理に努め、生産者の営農活動に貢献する。



## JA人の動き

○JA津軽みらい（令和6年3月28日付）

代表理事専務（総務管理担当）

奈良

寧（新）

代表理事常務（営農購買担当）

小山内 忠 道（新）

代表理事常務（信用担当専任）

種 市

誠（新）



# 誉

地域農業支える使命感

メロンの種をまいた後に水まきをする木村さん



つがる市木造の木村文宣さん（56）のビニールハウスでは、つがるブランド農産物であるメロンの育苗作業が始まっている。ハウス内で作業員が育苗箱に丁寧に種を植え付けする一方で、別の作業場では台木と穂木の切断面をつなぎ合わせる接ぎ木作業を進めている。メロン、スイカ合わせて約100戸の農家組合員から23万本を受注している。

就農してからの約30年、基本に忠実に、毎年同じ時期に同じ作業をこなし、良質な苗の提供を心がけてきた。「苗の出来が農家の営農活動に大きく影響するため、良い苗を作って当たり前。失敗はできない」と穏やかに話す木村さんだが、その言葉からは地域の農家を支えていこうとする熱意が伝わる。

作業場で接ぎ木された苗の一部は、JAごしょつがるの育苗施設へ搬入され定植時期まで管理した後、生産者へ引き渡される。協力体制を築き、メロン苗の出荷量を増やしてきた。10棟あるビニールハウスで2回転する育苗作業は5月中旬まで続く予定。木村さんは、安定した苗の供給を継続していくためにも法人化を目指したいという。その思いは、地域農業を守っていこうとする使命感に満ちている。

## 後編 記集

4月の人事異動発令、今年も現業維持決定、また1年間よろしくお願ひします。

今回の写真は劇団四季「アナと雪の女王」です。2月に東京の四季劇場「春」で、開演前のステージと当日の出演者の写真です。劇団四季のミュージカルは好きで、青森県の公演もできる限り観に行ってます。毎回、出演者の声量の凄さに感激してます。あと「バック・トゥ・ザ・フューチャー」が2025年4月開幕、凄く楽しみです。

それでは皆様、「SEE YOU ON MAY!」(一)

アナと雪の女王			
→ 本日のキャスト →			
エルサ	高田 望子	アナ	三早 美沙
クリストフ	宮崎 大樹	オラフ	大塚 美紗
ハンズ	大塚 征也	ウェーゼルトン	石野 遼一
スヴェン	内本 克洋	パビー	津山 謙
バルド	船橋 哲郎	オーケン	塩崎 仁
アナナム王	岡久津 陽一郎	イドゥーナ妃	小林 由希子
キングエルサ	坂東 隼乃	サンダアナ	飯田 花
→ 男性アンサンブル →		→ 女性アンサンブル →	
小関 春樹	船山 裕子	船山 裕子	藤本 美子
村岡 慶介	船橋 美登	船橋 美登	志賀 ひかる
土井 夏以	手島 聖年	北川 美鈴子	前田 幸十
	船橋 早紀		



## ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>  
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>  
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>  
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>  
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。